

研究主題：

「言語活動の充実と道德教育の推進」

～新学習指導要領の実践に向けて～

(一年次)

1. はじめに

新学習指導要領が今年（平成21年）の4月から全国の小学校・中学校において、一部先行実施されている。新学習指導要領の基本的理念は「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体」を基盤とした「生きる力」をはぐくむことである。つまり、知・徳・体をバランスよく育て、それによって生徒一人ひとりに個性的で全人的な成長を実現し、社会に出てからも、また自らの人生を生きていく上でも、基盤となる「生きる力」が生徒に身につくように、私たちは努めなければならない。この「生きる力」をはぐくむために、その具体的な手だてを確立する観点から示された学習指導要領改訂のポイントは、次の通りである。

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ①改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂 | ②「生きる力」という理念の共有 |
| ③基礎的・基本的な知識・技能の習得 | ④思考力・判断力・表現力等の育成 |
| ⑤確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保 | ⑥学習意欲の向上や学習習慣の確立 |
| ⑦豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実 | |

さて、私たちは昨年度までの三年間、「豊かな学びで個を育む」という研究主題を掲げ、「確かな学力」の定着をめざした研究に取り組んできた。上記の「基礎的・基本的な知識・技能の習得」に視点をあてて研究を進めた結果、基礎的・基本的な学力が確実に生徒に定着してきているように思われる。しかし、「思考力・判断力・表現力等の育成」に関しては、それぞれの学力が向上してきているという成果は得られているものの、「思考力・判断力・表現力を養っていくための授業づくり」については、言語の活用や他者との伝え合いを大切にする授業に工夫がいるという課題が残った。

また、今回の改訂では「習得・活用・探究」の学習活動が重視されているが、本校も昨年度、「習得・活用・探究」に視点をあてた授業を展開した。その取り組みより、教師が「習得・活用・探究」の場面に授業中に意識することで、学習のポイントを明確に生徒に示しやすくなり、生徒の理解が進んだという成果や、授業にめりはりが出てきたという感想が得られた。

中央教育審議会答申（平成20年1月）で示された「習得・活用・探究」の学習の流れについては、文部科学省は次の通りに説明している。

- 「基礎的・基本的な知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」は子どもに身につけさせるもの、「習得・活用・探究」はそのための学習活動の類型を示したものである。
- 各教科では、基礎的・基本的な知識・技能を「習得」とともに、観察・実験をしてその結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといったそれぞれの教科の知識・技能を「活用」する学習活動を行う。それを総合的な学習の時間等における教科等を横断した問題解決的な学習や「探究」活動へと発展させる。
- これらの学習活動は相互に関連し合っており、截然と分類されるものではない。
- 各教科での「習得」や「活用」、総合的な学習の時間を中心とした「探究」は決して1つの方向で進むだけではない（「習得→活用→探究」の一方通行ではない）。
- これらの学習の基盤となるのは言語に関する能力であり、そのために各教科等で言語活動を充実させる。

今年度は、「習得・活用・探究」に視点をあてた研究をふまえて、思考力・判断力・表現力等の基盤となる言語の能力を育成するための学習活動に重点を置きながら研究に取り組みたい。また、調和のとれた生徒の育成のために、豊かな心をはぐくむ道德教育の推進にも力を注いでいきたいと考えている。

2. 研究主題と研究内容

(1) めざす学校像

一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな心とやりぬく力を育む学校

国際社会で生きていくための基礎的な資質や能力を育む学校

(2) めざす生徒像

本校生徒の実態を踏まえた上で、私たちが育てたいと願っている生徒像を次のようにまとめている。

①自分の興味関心を大切にし、何事にも意欲を持って取り組む生徒

自分の興味関心のある学習活動に生き生きと取り組み、直面する課題や困難に立ち向かっていき、自己実現に努めようとする生徒の育成。

②自分の思考を大切にし、自己の学びを追究する生徒

他者と関わりながら、自分なりの考えや表現を作り上げ、自己の学びへと深めていくことのできる生徒の育成。

③自分自身を大切にし、自分が関わる他者、社会、自然との共生を大切にする生徒

他者と共通の規範意識を身につけ 周囲の人々と協調しながら、社会の一員として生活を送ることのできる生徒の育成。

④異なる考えや文化を認め、異なる文化を持った人々と共生しようとする生徒

広い視野を持ち、多様な文化、生活様式、習慣、価値観を尊重し、他者と共に生きるために、相手の立場を尊重しつつ、すすんで国際社会に貢献できる生徒の育成。

⑤自分や自国の良さを理解し、何事にも積極的に関わろうとする発信力のある生徒

自分や日本の生活・文化・歴史・習慣を正しく理解し、自分の考えや意思を表現できる生徒の育成。

(3) 言語活動の充実に向けて

今回の学習指導要領の改訂において、「言語活動の充実」が教育内容に関する主な改善事項に掲げられている。PISA調査や全国学力学習状況調査などの様々な学力調査の結果から、今の子ども達は習得した知識や技能を活用して考えたり表現したりする力が弱いということは明らかである。本校の生徒も、論理的に文章にまとめたり、発表したりする力が弱く、また他者とコミュニケーションをとることが苦手な生徒もいる。私たちは各教科の授業において、思考力や判断力・表現力を養っていくための基盤となる言語活動を充実させていかなければならないと考えている。

PISA型の学力は国際社会に通用する国際基準に沿った学力である。本校のめざす生徒像の中にもあるように、異なる考えや文化を認め、異なる文化を持った人々と共生しようとする生徒の育成のことを鑑みても、PISA型の学力を身につけさせることが重要であると思われる。日本では、PISAショックの後に全国学力学習状況調査が行われるようになった。PISAの問題や全国学力学習状況調査のB問題は、実生活と結びついており、「生きる力」そのものである。つまり、習得したものを活用して解くといった、いわゆる思考力や判断力・表現力といった能力を身につけさせることが「生きる力」の育成につながる。「論述する、説明する、その理由を示す」といった教科の知識・技能を活用する学習活動を積極的に授業に取り入れていきたい。

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、思考力・判断力・表現力等を育成するための、各教科における言語活動を、次の通りに例示している。

①体験から感じ取ったことを表現する

②事実を正確に理解し伝達する

③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

④情報を分析・評価し、論述する

⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

そして、「これらの学習活動の基盤となるのが、数式などを含む広い意味での言語であり、すべての教科で取り組むべきものである」とされている。

そこで、今年度は教科ごとに、次の内容を重視しながら研究をすすめたいと考えている。

言語活動の充実に向けた各教科の視点	
国語	<p>言語活動を「記録・要約・説明・論述・討論」の場に仮定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に他者への発信スタイルを常識化 ・言語活動の評価しやすい発問の工夫 ・協同学習に関連して、小グループでの話し合いの場の設定 ・言語活動後の振り返り（自己評価）の導入
社会	<p>資料の読み取り能力を養う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取った情報を文章で表現する ・自分の文章と他者の文章を比べ、共通点や相違点に着目する ・自分の文章の不足分を補う
数学	<p>用語や定義などの確実な習得 合理的、論理的な思考力の育成 自分の考えたことを説明する力、人の考えを聞く姿勢の育成</p>
理科	<p>実験結果を考察し表現することに重点をおいた授業展開を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習を充実させる ・現象の原理をイメージ図で表現させる ・話し合いの場や、他者に説明する学習活動を充実させる
音楽	<p>例えば歌唱、器楽においては一曲を練習するのに、どのように表現したらよいか、自分たちの表現はどのように聞こえているのか、演奏を聴きあい感じたことを、これまでに習得した知識や経験を活用し、言語活動を行うようにする。また、調べ学習、例えば世界の音楽（民俗音楽も含む）やオペラ、ミュージカルなどを班別に興味関心に基づいて、それぞれメディアを使い、調べ、その調べたことを発表、そのときに社会的歴史的背景も含め、音楽文化についての理解を深めることにも重点を置く。</p>
美術	<p>表現領域では制作の最初の段階に発想したり自分の考えをまとめたり、制作終了時の感想や振り返りなど、これまでも行われてきた活動である。また、鑑賞領域における言語活動の活用も多いに期待されているところである。その中で「美」を探究する意識を高めるために考えたり、発想したことを文章化したり感じたり考えたことを客観的に一度言葉にしたものをもとに話し合いをもつことがポイントになる。また話し合いの中で自分の考えを修正しながら制作に生かせるようになれば更に良い。そのためには協同学習を授業に、より多く取り入れてお互いの考えの中で刺激を受けたり、触発されたりしながらより良い「美」を求めていくという形になればと考える。</p>
保健体育	<p>体育は他教科と異なり、誰かと補助をしあったり、同じ課題に向けてチームでプレイしたり、とにかく一人では成立しえない教科である。従って、個人的な種目であっても、集団的な種目であっても、他教科より、さらにコミュニケーション能力が必要とされる。</p> <p>生涯にわたって積極的にスポーツに親しむ習慣や意欲、能力を育成するとともに、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それと同時にこれらを活用して課題を解決しようとするときに大きくかわるのが言語である。体育での言語活動では、記録する力（ゲームの記録、技のポイントの記録、教え合いでの記録、など）説明する力（作戦、技の仕方、ゲームの分析、など）、まとめる力（振り返り、自己評価、他者評価など）これら全てに関わる語彙力が必要な力として考えられる。その中で本年度は、「説明する力」に焦点をあて、技能を分かりやすく説明し、みんながイメージできるように、自分たちの言葉や、体育独特な説明言葉や動き言葉を探ってみることとした。</p>
技術家庭	<p>「衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり説明したりするなどの言語活動」の充実をはかる。</p>

英語	<p>自己表現活動を多く取り入れる。</p> <p>4技能のバランスのとれたコミュニケーション活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の習得活動 ・飽きさせないドリル教材の開発 ・小学校での英語活動を活かす教材の開発 ・Authentic Materialの開発とICTの積極的な利用
----	---

(4) 道徳教育の推進に向けて

本校の使命の一つは、「他の学校と連携・協力し、教育研究を推進する」という事である。私たちは県内の公立中学校がかかえている課題を明らかにし、課題解決につながるような研究をすすめていかなければならないと考えている。そこで、昨年12月に和歌山県内全公立中学校に質問用紙を送付し、アンケートによる調査を行い、県内中学校の課題を探った。その中で、「基本的な生活習慣が身につけていない」「規範意識がうすい」等、生徒指導上の課題をもっている生徒が目立つ学校が県内にいくつかあることがわかった。本校にも、ペーパーテストの点を執拗に気にして机上の勉強だけでできればいいと考える生徒や、自分勝手に思いやりの心に欠ける生徒が少なからずいることも事実である。以上のことから、確かな学力だけではなく、豊かな心をはぐくむために、積極的に道徳教育を推進し、また道徳教育を本校の研究の柱の1つにすえて、研究を進めていくことにした。

また、「道徳教育の充実」が新学習指導要領の重点項目に位置づけられた。「道徳教育は各学校に道徳教育推進教師を置き、全教師が協力して道徳の時間を要として特別活動をはじめ学校の教育活動全体を通じて行うものである」と明確化されたわけであるが、本校の使命としても、他校のモデルになるような「道徳教育の充実」を目指した研究に取り組まなければならないと考えている。

新学習指導要領による道徳は、この4月からすでに実施されている。研究1年目の今年度は、「道徳の時間」においては中心発問のあり方に視点をあてたい。言うまでもなく中心発問は、ねらいとする価値に関して、生徒の多様な感じ方や考え方を生徒に語らせるために行う発問である。私たちは価値にせまる中心発問を効果的に授業のどの場面に設定すればよいか、また中心発問の問いかけをどのように工夫すればよい効果が得られるか等を検討しながら授業づくりを行っていく。また、総合的な学習の時間や特別活動においては、「自分が価値ある存在である」ということが実感できるような、いわゆる道徳性の育成をめざした体験活動をより一層充実させていきたいと考えている。

(5) 授業づくり（協同学習とICT機器の活用）

私たちは2年前から協同学習を授業に取り入れ、必要に応じてペアや4人で意見交換させながら、グループでの活動を重視した授業を展開している。その結果、どの教科においても学習活動が活性化し、学習の質が高いものになってきたと実感している。協同学習は、授業中の発問に対して、全体の場で意見を言いにくい生徒が発言しやすいという長所がある。また、自分の考えを他者と比べたり、わからないことを気軽に相談したりしながら、自己の学びを深めることもできる。そして、生徒どうしが意見交流をすることで、お互いを高め合いながら学習することができ、グループ全体の基礎学力を引き上げることも期待できる。まさに協同学習は、言語活動の充実をはかるために効果的な手段であると考えられる。

本校では、グループ活動の基盤となる班員の人数を4人（学級の人数により3人の班もある）に固定して、生徒どうしの関わり合いを深くするために、教科の学習をはじめ特別活動や総合的な学習の時間、清掃時間等、全ての学習活動を同じ班員で行わせている。そして、班員にはリーダー・サポーター・ライター・レポーターと役割を持たせ、グループが機能的に働くように工夫している。また今年度から全学年、普通教室での座席を「男女ペア型」に配置し、班員どうしのコミュニケーションが取りやすいようにした。今年度も引き続き生徒に与える課題や効果的なグループでの活動方法等も研究しながら、言語活動の充実を目指した授業展開を行いたい。

また、昨年度から各教科の授業において、生徒の理解が深まるようにICT機器を積極的に活用して

きた。ICT機器を用いることにより、今まで以上に意欲的に学習に取り組む生徒の姿が見られたり、教師が効果的に、かつ効率的に学習指導を進めることができたり、今やICT機器が必要不可欠となりつつある。今年度もICT機器をより効果的に活用していきたいと考えている。

3. 研究の成果と課題

言語活動の充実を目指した各教科の取り組みの成果と課題は、以下の通りである。また、各教科における具体例は、別添資料にまとめている。

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「メタ認知」に視点を置いて、ハイレベルな授業を組み立てることができた。 ○生徒は他者との関連を意識したことで、わかりやすい自分の意見や考えを出すことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「メタ認知」という難しい概念を生徒にどのように伝えるか。また、「メタ認知」を学習に取り入れるためのマニュアル化した方法をどのように作るかということの難しさを感じた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りや課題に対する思考の多角化・深化に成果が見られた。 ○グループで様々な角度から社会的事象を考察することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●考察した内容を、根拠を挙げて文章にまとめたり発表する力はまだ弱い。個人レベルでの「まとめる」、「書く」、「話す」力を高めていきたい。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○論理的思考力(＝数学的思考力)の育成に取り組んだことにより、自分の考えを的確に他者に伝える力が身についてきた。授業においても、話し合う考え合う場の雰囲気が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●数学的思考力を培うために、数学的な活動を通して、数学の用語や定義の定着をはかりながら、他者に説明する機会を増やしていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果を考察させる際に、イメージ図を描かせたり、ヒントを与えたりすることで円滑に考察できるようになった。 ○発言する機会や他者に説明する場面を多く設定すると、学習した内容の理解が深まった。 ○発展的な内容を取り入れることで、生徒の学習意欲は高まり、他者との意見交流が活発になった。 ○言語活動は、専門的語彙の習得や科学的思考力の育成に効果的であることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●思考力を高めるために教材を開発する。 ●実験や観察の結果から科学的な根拠を見いださせる。 ●学習内容の要点をまとめる活動を充実させる。 ●他者と意見交流させる場面で、より交流が深まるような新しい方法を研究する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱練習などをするとき、生徒どうし話し合ったり、意見交流をすることで、曲に対する表現方法が多方面で深まった。また、生徒どうしの結束力、チームワークが高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽活動を中心に、自然に生徒どうしのコミュニケーション力、また教師と生徒とのコミュニケーション力を高められるような言語活動を取り入れていきたい。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞の授業において、協同学習という形態での言語活動を取り入れることで、アイデアを出し合いながら班ごとで工夫することができ、個人の学習活動が想像以上に充実したものになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒に考えさせる際の細かな手順を作っていく。 ●発表の仕方や、考察した内容の整理の仕方に改善と工夫がいる。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉を意識した授業を行うことで、技や動きのイメージを膨らませる言語が出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の感じる力や想像する力を深化させるために、生徒のイメージを膨らむような工夫をしていきたい。
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○「コンピュータでカーンを制御する」という実践を通して、生徒の論理的思考力・判断力・表現力を培うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多様なものの見方や考え方を発信し、学び合う場を成立させるために、題材の設定に工夫がいる。

技術家庭	○グループでの言語活動を取り入れることで、身のまわりの多くの機器や衣類の扱いについて深く考えることができた。	
英語	言語活動（＝自己表現） ○語彙の補充学習のためにソフト（smart.fm）は、自己表現の基礎となる語彙の習得には便利である。 ○普通教室における簡易CALL装置の活用は、自己表現を充実させる上でも、効果は大きい。 ○京都での校外学習活動は自己表現そのものであり、英語学習への意欲をさらに高めることができる。	●協同学習（仲間どうしの学び合い）をCALLやICTを活用しながら活かす授業展開の研究を進める。 ●新CALLシステムの活用方法の研究を進め、4技能の総合化によるコミュニケーション能力の育成を図る。 ●言語活動への意欲を高めるため、RCAとの交流内容を検討していく。

言うまでもなく、言語活動を充実させる目的は、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるためである。全国学力学習状況調査の結果より、本校生徒も思考力・判断力・表現力が弱いということがわかった。しかし、各教科で言語活動を重視した授業づくりを推し進めている中で、感覚的なものであるが、生徒の思考力・判断力・表現力は確実に伸びてきているように思われる。今後も学力調査等の客観的な結果を分析して、生徒の実態を明らかにし、研究をすすめていく必要がある。

調和のとれた生徒の育成、つまり「豊かな人間性」を育むために、道德教育の推進にも力を入れてきた。詳しくは、本書の道德の欄に書かれているが、成果として、まず教師の道德教育に対する姿勢が変わったことが挙げられる。各学年の生徒の実態に合わせた取り組みが、計画的に、また共通理解のもと行われるようになった。道德の時間における研修も充実し、教師の授業力も向上しつつある。道德の時間を楽しみにしている生徒が多くなり、生徒指導上のトラブルも以前より随分と少なくなった。

協同学習やICT機器を活用した学習は、より効果的に授業に取り入れられるようになり、すべての教科において授業は活性化してきている。

【参考文献】

- ・和歌山大学教育学部附属中学校研究紀要「いとなみ」 2008年
- ・中学校新学習指導要領の展開 総則編 大杉昭英 明治図書 2008年11月
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」平成20年1月17日 中央教育審議会答申
- ・言語活動に関する学習指導要領改訂の記述例（抜粋）
- ・中学校学習指導要領（平成20年3月告示）及び解説、Q&A
- ・授業研究21（2009年4月号）「全国学力テスト」が求める読解力 明治図書
- ・中学校新学習指導要領の展開 道德編 加倉井隆 明治図書 2008年11月
- ・道德授業の基本構想 青木孝頼 文溪堂 1995年12月
- ・「公立学校への挑戦 ～授業を変える学校が変わる～」 佐藤雅彰 佐藤学 ぎょうせい2007
- ・「わかる・できる授業のための 教室のICT環境」 堀田龍也 野中陽一 三省堂2008

各教科における言語活動の具体例 その1

教科	言語活動の具体例
国語	<p>言語活動として国語科が意識させていることは、メタ認知である。 「感受」「表現」「収集」「整理」「記録」「伝達」…などなどの項目を実践するとき、そのことが相手からどう思われるのか、周囲にどういう影響を与えるのかを常に考えさせることを重要視する授業展開を心がけている。 ただ発表をするだけでなく、どう発表すればどうなるのかを考えさせたい。</p>
社会	<p>資料の内容を読み取り、社会的事象の意義について考え、対話、論述を行う。</p>
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成（記録・論述・要約）…課題や単元の振り返りをレポートとして作成。 ・班活動（説明・討論）…テーマについて、既習内容を利用して話し合う。 ・説明や各単元の利用…結果だけでなく、途中の過程を筋道立てて考える。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決（対話）…基礎・基本的な知識・技能を活用しながら、発展的な課題解決をグループで行う。 ・レポート作成（記録・論述）…実験や観察時に、個人レポートを作成する。 ・ワークシート作成（要約）…思考した事柄を、図を用いながら表現する。 ・班活動（伝達）…実験や観察時に、仮説や方法及び結果等を、ペアや4人で伝え合う。 ・実験や観察のまとめ（説明・発表）…班活動を通して考察した内容を、学級全体に説明する。
音楽	<p>例えば歌唱、器楽においては一曲を練習するのにどのように表現したらよいか、自分たちの表現はどのように聞こえているか、演奏を聴き合い感じたことをこれまでに習得した知識や経験を活用し、言語活動を行うようにする。また、世界の音楽やオペラ、ミュージカルなどを班別に興味関心に基づいて、それぞれメディアを使い、調べ、その調べたことを発表、そのときに社会的歴史的背景も含め、音楽文化についての理解を深めることにも重点を置く。</p>
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・表現…「テーマ」決定時にそのテーマの内容にふさわしい言葉やタイトルを考える（説明・論述） ・鑑賞…課題の最後の時間にとる自己評価や他者評価、毎時間の振り返りの評価（記録・論述）
体育	<p>〔体育分野〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ノートやグループノート（記録・論述・要約）…単元の見通しや自分や自チームの課題、毎時間のめあてや練習計画、取り組み内容やアドバイスし合った内容や支援されたこと、自分や自班の気づき、学び、反省、次のめあてや練習計画などを記録する。 ・単元の振り返りカード（記録・論述・評価）…単元を通しての学びや気づきなど、単元のはじめの課題やめあてと比較しながら評価を行い成果をまとめる。 ・アドバイスカード（記録、論述、評価）…単元の中ほどで次のステージにあがるために、自分の課題を解決する工夫がなされているか、またもっと適切な課題や解決方法をペア班で記録し、教え合う。 ・班会議、種目会議、全体会議（討論、対話、評価）…チームや個人の課題や練習計画などを確認し合い、毎時間の教え合いや学び合った内容や、疑問点やポイント、練習方法を伝え合う。 ・発表会、まとめのゲーム、記録会など（論述、評価）…学習の成果を出し、全員のものとする。 <p>〔保健分野〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した（身につけた）知識を活用して話し合う活動を授業の中に積極的に取り入れる。
技術・家庭 (技術分野)	<p>製品の工夫における話し合い（討論）…身の回りの製品などになされている工夫について考え、話し合いをする。</p> <p>実験を通じた話し合い（討論）…実験結果をもとに、課題について話し合いをする。</p> <p>構想したものを図で表す（記録・説明）…等角図、キャビネット図の作成をする。</p>

<p>技術・家庭 (技術分野)</p>	<p>作品の相互評価 (批評) …製作品の相互評価をする。 レポート作成 (記録・論述) …興味・関心のある内容についてレポート作成する。 栽培記録作成 (記録) …自分の栽培している作物の栽培日誌を記録する。 ポスター制作 (記録・説明) …言語・図・記号を使って省エネルギーについてのポスターを制作する。 問題解決アルゴリズム作成 (記録・説明) …問題解決におけるアルゴリズムを作成する。 フローチャート作成 (記録・説明) …図記号を使って、作成したアルゴリズムについてのフローチャートを作成する。 実験データの処理 (記録・論述) …実験で計測したデータをもとに、課題について考察をする。 学習内容の感想 (感想) …各題材を終えての感想を記入する。</p>
<p>技術・家庭 (家庭分野)</p>	<p>ロールプレイング (対話) …役割を演じコミュニケーションを考える。 家族から幼い頃のききとり調査 (対話) …自分の幼い頃の話をしきとり関心を深める デイバート (対話・討論) …家事分担や保育についての問題を賛成派・反対派に分かれて 討論することでより深く考えさせる。 実習・実験 (記録) …実習や実験の記録を正確にとり、失敗や課題について考察させる。 レシピづくり (要約) …実習して自分がつくりやすポイントをしばった表現を考える。 レポート (記録・要約・論述) …興味、関心ある内容や実践についてレポートにまとめる。 製作したオリジナル絵本の相互評価 (批評) …製作した絵本を互いによみ、感想を伝える。</p>
<p>英 語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画、CDや教師の英語の聞き取り ・ 体験や経験に基づいたスピーチ ・ テキストのリーディング ・ 既習の文や語句を用いたライティング、スピーキング ・ インフォメーションギャップや図、グラフなどを用いた情報整理 ・ A L Tとのコミュニケーション活動 ・ オーセンティックな題材を用いたコミュニケーション活動 <p style="text-align: right;">など</p>

各教科における言語活動の具体例 その2

教科	要素	題材や場面	つきたい力	工夫する点
国語	表現	小説を作る	感情を相手に伝えるための的確に表現する力	感情を具体的な行動を示す言葉で表現することを意識させる
	論述	根拠をあげて主張を論じる	主張を理解してもらうために必要な根拠を相手の立場で考える力	中心となる根拠に対する反論を様々な視点から考えるようにさせる
	解釈	徒然草の解釈をしよう	文中の言葉にこだわり、自分の体験を想起して読む力	自分と他者の解釈を比較しながら、自分の読みを深める学習活動に注意させる
	伝達	プレゼンテーション	よりわかりやすく他者に伝える力	文章やプレゼンテーションの例の比較を通して、わかりやすくするためのポイントを意識させる
	分析表現	広告文を作ろう	分析する力 表現と工夫する力	座標軸法を用いて、グループで意見を出し合って分析させる
	論述	説得力のある話し方をしよう	論理的な思考力 文章構成力	ロールプレイ（役割分担演技）を通して互いに確認しあわせる
社会	読み取り（読む）	資料（絵画、文章、地図、グラフ、統計）	資料活用能力	資料の見方・活用方法を理解させる
	対話	ペア及び班での話し合い	資料活用・社会的な思考力・判断力・表現力	理解した内容を共有する中で、様々な考え方があることに気づかせる
	論述（書く）	レポート、論述問題	社会的な思考力・判断力・表現力	社会を構成する様々な要素を考察し、自分の考えを論理的に判断し、表現させる
数学	記録	・レポート	・用語や定義の確実な習得	・用語や定義についてはきちんと記述させる
	説明	・班活動 ・授業中の質問	・説明する力	・説明する場をより多く設定する ・単語で答えさせない
	論述	・レポート ・説明（2年、3年） ・各単元の利用（全学年）	・合理的、論理的な思考力	・筋道立てた考え方を理解させる
	討論	・班活動	・話を聞く姿勢 ・合理的、論理的な思考力	・他者の考えを分析させる
	要約	・レポート	・合理的、論理的な思考力	・A4の用紙1枚に集約させる

理科	記録 論述	実験や観察時にレポートを作成させる 個人の興味関心に基づく「自由研究」を提出させる	科学的な思考力 表現力 知識及び技能	レポートの書き方や表現方法について詳しく説明する
	対話	生徒の興味関心に基づいた発展的な内容を扱う	科学的な思考力	ホワイトボードを活用しながら、グループで思考させる 実物や視聴覚教材を用いる
	説明	自然の事物や現象について、説明させる	科学的な思考力 表現力	図や模型を活用させる 専門的な語彙を習得させる
	要約	ワークシートに記入させる時に、ポイントをまとめさせる	表現力	ポイントを明確にする
	伝達	実験や観察時、学習内容を伝え合わせる	科学的な思考力 表現力	班活動を重視した実験や観察を行う
	発表	実験や観察時、考察した内容を学級全体に説明させる	表現力	他者にわかりやすく伝わるようにタブレットPCなどを活用する
音楽	記録	歌唱、器楽	自分なりにまたはグループで目標を設定しその目標を達成できる力	学習カードを使い、目標とふり返りを書く
	論述	鑑賞レポート	選択する力、探す力、調べる力、まとめる力	資料やメディアを十分活用
	批評	演奏発表	お互いの演奏を聴いて根拠をもって批評できる力	メモ、講評用紙に記入し後にお互いの演奏を批評し合う
美術	記録	鑑賞	作者の心情や制作姿勢などを自分なりに読み取り記録する力	記述方法を理解させる
	論述	鑑賞	作者の心情や制作姿勢などを自分なりに読み取りまとめる力	作品の読み取りに基づいて記述させる
	批評	鑑賞	作者の心情や制作姿勢などを自分なりに読み取る力	他人の作品などの読み取りに基づいて記述させる
	説明	鑑賞	作者の心情や制作姿勢などを自分なりに読み取り発表する力	ワークシート等を活用させる

体育	記録表現	<ul style="list-style-type: none"> すべての単元（種目）個人ノートやグループノートを用いて記録や仲間に表現しあう 	<ul style="list-style-type: none"> 表現力、思考力、判断力 運動のコツや手応え、仲間からの助言を自分の言葉で記述したり、発表したりする 	<ul style="list-style-type: none"> 運動ポイントの明確化や課題やめあて、練習計画を図るため、資料の見方や使い方を理解させ、また、よく書けているノートを紹介するなど記録方法を理解させる
	理解解釈伝達説明	<ul style="list-style-type: none"> 班会議、種目会議、全体会議で自分や班で解釈したことを説明しあう 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力、判断力・表現力 感じる力、想像する力 運動のポイントやゲームのルールなどの理解と実践をする ゲーム等の分析から自分やチームに合った練習や作戦を考えて説明する 発問されたことをもとに、考えたり、話し合ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> 体験から感じ取ったことを自分の言葉や図、絵、身体などを使って表現させるようにできるだけ具体的な言葉かけをさせる 他者と伝え合ったり、共感しあったりさせるため、自分がおこなっていないことでも推し量ることができるように、具体的な教具の工夫などを行う
	批評論述討論協同	<ul style="list-style-type: none"> レポート・アドバイスカード・評価カード 班会議、種目会議、全体会議・発表会などで 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力、表現力、観る力 観察できる力、考える力 観察や体験を基に話し合ったり、課題について論述する ペアやグループで互いに励まし合ったり、アドバイスしあったりする 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が得た知識と仲間の考えや意見を交流させ自分の学習の振り返りやプロセスをきちんと辿ることができたり、課題へもどりの確な自己評価・相互評価ができるように良かったところ、やがんばりを出し合わせる
技術	討論	<ul style="list-style-type: none"> 製品の工夫における話し合い 実験を通した話し合い 	思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇だから××」と論理立てた話し合いをさせる
	記録	<ul style="list-style-type: none"> 構想したものを図で表す レポート作成 栽培記録作成 ポスター制作 問題解決アルゴリズム作成 フローチャート作成 実験データの処理 	思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> 教科特有の言語の基盤を育成する 記述方法を理解させる
	論述	<ul style="list-style-type: none"> レポート作成 実験データの処理 	思考力・判断力・表現力	レポート等の作成方法を理解させる
	説明	<ul style="list-style-type: none"> 構想したものを図で表す ポスター制作 	表現力	教科特有の言語の基盤を育成する
	批評	<ul style="list-style-type: none"> 作品の相互評価 	判断力・表現力	どこがどのように良いか、悪いかを明確に表現させる
	感想	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の感想 	表現力	自分の意識が、学習の前後でどのように変容したかを記述させる

家庭	対話	ロールプレイング 家族から幼い頃のききとり調査	思考力・表現力 判断力・表現力	悪質商法や幼児との触れ合いを想定して、コミュニケーションのとり方を考える 保育の事前学習として、幼い頃の自分をふり返りえる
	討論	ディベート	思考力・判断力・表現力	家事分担や保育に関わっての討論をさせることで、より深く考えさせる
	記録	実験結果の記録	判断力・表現力	実験結果を正確に記録させる
	要約	レシピづくり	思考力・表現力	よりわかりやすいレシピを考える
	論述	レポート（行事食、洗濯、大掃除等）	思考力・表現力	各家庭で実践しながら家族とのコミュニケーションをとる 実践から学んだ知識を活用しさらに関心を高める
	説明	商品の選択	思考力・判断力・表現力	知識を活かし、商品を選択するときの判断基準を説明する 各種マークの意味を理解し、活用できる
	批評	製作したオリジナル絵本の相互評価	表現力	製作した作品（絵本）を相互評価し、感想を伝える
	感想	学習内容の感想	表現力	実習や製作を通して学んだことを記述させる
英語	記録	・京都校外学習での活動をレポートする	聞くこと 書くこと	レイアウトを工夫し、見やすくさせる
	説明伝達	・映画を見たり、本を読んだりして内容を伝える ・体験や経験を元に自分自身の考えをスピーチとして発表する ・ジェスチャーなども用いて、相手に伝えたいことを表現する ・図やグラフなどを読み取ったり、聞き取ったりして説明する ・日本独特の文化について説明する ・show & tellやinformation gapの活動を通して事実を正しく相手に伝える ・あるテーマに対する意見や考えを述べる	読むこと 書くこと 話すこと 聞くこと	スピーチの仕方（声の大きさ、態度、スピード、ジェスチャー）を理解させる

理解 要約	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれたものを読んだり、英語で話されたことを聞いたりして、内容を正しく理解する ・英文で書かれたテキストの内容をまとめる 	話すこと 聞くこと 読むこと 書くこと	CALLや簡易CALL装置を活用し、様々な情報を与える
討論	<ul style="list-style-type: none"> ・あるテーマを元に、ディスカッションやチャットを行う 	話すこと 聞くこと	身近なテーマを設定し、班対抗、列対抗などで討論させる
対話	<ul style="list-style-type: none"> ・あるテーマを元に、話したり、聞き合ったりする 	話すこと 聞くこと	オーセンティックな題材をとり入れる

